

遠隔授業システム設置について (新座キャンパス)

1. 概要

今日大学授業におけるテレビ会議遠隔講義システム導入は、授業の集約化又はグローバル化として各キャンパス間で数多く利用されていると思われる。以前ある大学では毎週有名アメリカ提携校の授業を遠隔講義経由で受けている、との話も聞いた事がある。そのような状況の折、当校も遂に導入決定の運びとなった。

以下に設備完了までの流れを記載する。

2. 導入検討

平成 23 年新座キャンパス 8 号館新棟完成に伴い、いくつかの新しい AV 設備も導入された。その中でも前回のメディア報で紹介したメディアセンター中継システムは当初よりテレビ会議等の中継も計画して設置したシステムであり、完成後に同システムの多目的利用を推進するため、総務課・教務課や先生方への PR を行った。

その結果観光学部の先生より遠隔授業の話が出た。しかしこちらでは具体的な内容までは耳にしなかった。その後昨年 7 月頃教務課より遠隔授業検討したいとの内容を耳にし、いよいよ導入へ向けての動きが始まった。

3. 検討項目について

遠隔授業システムは初めての取り組みであり、いろいろと迷う面もあったが、以下の内容を主な検討項目事項として取り上げた。

- (1) 池袋・新座それぞれの利用可能な教室について。
- (2) 授業をどのようなスタイルで行うか。
- (3) 実際の操作はだれが行うのか。
- (4) どのようなシステムにするか。

上記具体的な内容として項目 1 の教室選択に関しては、池袋では AB01・4402・7101 等が候補となり、又新座では N852 や N8B1 が浮かんた。その中で最終的に AB01 と N852 が利用教室として決定された。

次に 2 項目の授業スタイルについてであるが、コンテンツ表示・カメラ選択・質疑応答時間等の内容が考えられる。コンテンツはサブ画面表示（新座）とし、又質疑応答は最後に行う事とした。その他カメラ切替は教師側・生徒側状況に応じて適宜切替とする。その他 3 項目の操作については TA の協力及びバイト学生 1 名を用意する事になった。

最後 4 項目の設備についてであるが、池袋 AB01 教室ではカメラやスイッチャー等の必要機器の追加設置を行うとし、又新座では主に既存設備の利用とし、一部操作卓やモニター・コンバーター等の追加設置を行う事とした。現設備が予めこのようなシステムの利

用を見込んでおり、新規設備機器設置は最小限のものでシステムアップを図る事が出来た。

今回両キャンパスこれら設備の中でも特に注意を払ったものがテレビ会議ユニットの選択であった。まずいくつかの候補を挙げ、次に両キャンパス間で実際に接続テストを行い内容を確認をした。今日テレビ会議機器では海外著名メーカーが多く市場を占めている。確かに操作性や画質等も素晴らしいものがある。しかし今回はトータル的に考慮して国産メーカーのものを採用した。海外製に比べコストの関係で内容が幾分簡略化されているが、その割には画面も綺麗に表示され、又パケットロス等にも強いと思われる。

4. 工程について

以上の様な流れで内容が明確化したのが本年2月の後半、その後設置承認や機器手配等で、結局工事着手が3月初旬になってしまった。それでも関係者の努力で月内に何とか完成する事が出来た。そして新年度から初めての遠隔授業が開始される予定である。多分この内容が紹介される頃は、既に数回授業も行われている事であろう。好結果に期待したいものである。

5. 今後の活用について

新学年より予定通りに遠隔授業が行われて無事完了ともなれば、後期も何らかの内容が計画される事であろう。又次回からは新座での講義発信も考えられる。更に今の時期海外提携校を囲み、池袋・新座の3拠点授業もあっても不思議ではない。いずれにせよ計画次第では遠隔のメリットを生かして様々な地点との交流が可能になるので、今後の活用が期待されると考えている。

6. 両キャンパス利用教室の紹介

◇池袋 AB01 大教室授業風景の様子



◇新座 N852 遠隔教室

半円形机教室、中央スクリーンに池袋側の講師、両サイドスクリーンに同コンテンツが表示される予定。



遠隔用操作卓



機器はマルチモニター・カメラ操作
コンソール・カメラ制御タブレット等